



「ニウバーム」を
1名様にプレゼント!
▼
詳細は p.38 へ

MONO語り

Vol.115 フィジー

南

太平洋に浮かぶ島国フィジーには、ハーブ（薬用植物）の文化が今も母から子に受け継がれています。東京都市大学のプロジェクトとして薬用植物を研究する村上志緒さんは、そうした伝統が色濃く残るラケンバ島などを訪れ、フィジーのハーブ文化を学びました。そこから生まれたのがフィジーのハーブ製品のブランド「Fijian Trad」です。

フィジーのハーブの知恵が詰まっているのは「ニウバーム」。ニウとはココヤシのことで、ココナツミルクに月桃やイランイランなどのハーブを加え、5日間日光に当て、火にかけてオイル状にします。「今でも各家庭で手作りし、スキンケアや虫さされなどに使っています。このオイルを作るのは女性の仕事ですが、お母さんと一緒に過ごす子どもたちは、自然にハーブに詳しくなります」と村上さん。

もうひとつは、ハーブの香りや成分を抽出した芳香蒸留水。もともとフィジーにはなかったハーブの使い方ですが、「若い人たちが蒸留体験にとっても興味を示したので、好奇心と創る力を発揮するプロダクトとしてイ

写真・高岡弘 文・久島玲子（編集部）

フィジーの ハーブ文化を 伝えたい



ランイランなどを材料に取り組んでいます」。どちらも商品のベースをラケンバ島の人たちが作り、日本で商品に仕上げています。

「自然に寄り添ってきたフィジーの人の豊かさを日本の人に伝え、フィジーの人たちとは、そのハーブ文化の素晴らしさ、新しく作り上げる喜びを分かち合いたい。そしてフィジーの若者たちの新しくフェアな仕事になるように『Fijian Trad』を育てていきたいと思っています」



孫と一緒にココナツミルクを作るネーナ（おばあちゃん）。村上さんのハーブの先生だ

商品の購入はトトラボHPまで ▶ <https://www.totolab-shop.com>